

提出日 2020 年 1 月 16 日

## 2019 年度 琉球弧研究支援 報告書

### 研究テーマ

「宮古民謡について～なりやまあやぐ  
から学べること～」

氏名：金城あいさ・松島ななせ

所属：こども文化学科 1 年

## I. 初めに

宮古民謡について調べるために、実際に宮古島に行き、なりやまあやぐ実行委員会事務局長「下地一雄さん」から、なりやまあやぐについてお話を聞いてきた。

## II. 研究目的、動機

わたしたちは、昔から受け継がれてきた宮古民謡を学び、島民の生活に与える影響から私たちに還元できることを調べたい。

## III. 研究方法、地域、期間

9月に宮古島に訪れ、なりやまあやぐ大会実行委員会事務局長「下地一雄さん」からなりやまあやぐについて聞いた。本島に帰ってから、本で調べたり、インターネットで調べたりしました。

## IV. 結果

なりやまあやぐとは、宮古島を代表する民謡のひとつである。旋律が非常にゆったりとしていることから、三線の入門曲として広く歌われ、宮古島民ならば誰もが1度は耳にしたことがある名曲だ。しかし、プロをもってして「満足に歌えることはない」と言わしめるほど、シンプルにみえて非常に奥が深いと言われている。

なりやまあやぐの作詞・作曲者は定かではない。しかし、宮古島の友利地区が発祥地ということ、さらには元治元年（1864年）にはすでに友利で歌われていたということがわかっている。現在、アラマンダ インギャーコーラルヴィレッジの横に位置する友利集落のイムギャーマリンガーデン（インギャーマリンガーデン）には、「発祥の地」としての歌碑が建立されている。歌詞の内容は、妻が夫を諭す教訓歌であり、大人の女性の気持ちを歌ったもので、「夫が他の若い女性に心をひかれしないで下さい」と願いを込め、例え話を入れながら「ほかの人に、心をうごかさなさいね」との気持ちをこめて歌っていると言われている。そんななりやまあやぐを次世代に受け継いでいこうと始まったのが「なりやまあやぐまつり」である。2019年の大会で第14回目を迎えた。毎年、なりやまあやぐ発祥の地である友利で開催されている。この大会では、参加者がなりやまあやぐを歌い、その音色を競う。子どもの部・大人の部があり、色々な世代の方々が出場され、今では海外の方で参加されている人がいるようだ。

なりやまあやぐまつりは、次世代に受け継いでいくことのほかに、この祭りを通して人がたくさん来ることで地域おこしに繋がることを目的に開催している。その結果、子どもたちはもちろん、大人の方が三線を習おうと、三線教室が活気あふれていった。今では三線教室がどんどん増えていっていることが、ひとつの地域おこしとなっていることだろう。子どもたちは、なりやまあやぐまつりを通して、民謡に触れ、自然と様々な宮古民謡について知っている。その子どもたちが大人になり、その子どもに伝えていく。それが次世代に受け継いでいく第一歩です、と下地さんは言っていた。

## V. 考察、分析

自分の住んでいる町のことを知ることは、とても大切なことであり、私たちも見習わなけ

ればならないことだと思いました。どんなに時代が進んでも決して忘れてはいけない故郷の歴史。それを大切に、次世代に受け継いでいくということをこの研究を通して学びました。また、宮古民謡のなりやまあやぐを通して、世界に宮古島のことを発信できている実績を聞き、わたしたちが住んでいる本島でもなにかを通して世界に発信することができたらいいのではないかと感じた。

#### VI. 今後の展望

宮古島の民謡の大会を通して、こどもたちが宮古の文化について触れられるきっかけを作っていると考えられる。わたしたち本島でもなにかをきっかけに、こどもたちが沖縄の文化について知られるきっかけを作ることが大切である。例えば、小学校に三線を置き、こどもたちに三線に触れてもらうなど。運動会などでエイサーをすると同じように、こどもたちが三線に触れるきっかけを作ることができるのではないか。その行為こそが、下地さんが言っていた次世代に受け継いでいく第一歩になるだろう。そしてきっかけを作るためには私たち自身が正しい知識を持ち継承していかなければならない。今後はこの調査から学んだ、次世代に受け継いでいくきっかけづくりを何かを通してやっていくために本島の伝統を知り模索していきたい。

#### VII. 終わりに

この宮古民謡の研究を通して、普段の生活では知ることができなかった文化を次世代に受け継ごうとしている人の動きや心情を知ることができた。まだまだ計り知れないことはあると思うが、この研究から学んだことを忘れずに私たち自身ができることを考え何かの役に立てばいいなと考えている。

#### VIII. 指導員のコメント

「なりやまあやぐ」という宮古島の民謡の継承を意図する「なりやまあやぐまつり」があること、そしてそのまつりに込められた想いに地域おこしや宮古の文化を大切にしていこうという思いがあることが分かり、自分たちの生活を振り返ってみる必要を感じた点に、研究したことの成果が見られる。